タイム ッ セイ グッバイ

下平　眞理

覚えてる？　とラインがきたのは、早朝にフィギア女子ショートプログラムが終わった日の朝だった。友達とイタリア旅行にでかけたのは、まだ二人共五十代前半でやっと子供達が大学生になった頃だった。なぜ彼女がイタリアに行こうと言い出したかはもう記憶にないが、行くことになった。

街中で聞こえてきた、コンテ パルティロ、坂本選手が演技する度に思い出すとラインの文面は続いていた。私はといえば余りにも聞き覚えがあって、心地よい歌声の音楽に気を取られるよりも、ジャンプがうまく跳べるかどうか気をもんでいた。

そうだあの曲。ミラノ、ベネチア、フィレンツェ、ローマと巡ってローマでの自由行動の一日、ボルゲーゼ美術館の傍のホテルから地図を手にローマ市内を二人で歩いていた時のことだった。小さなレコード店がありそこで彼女がＣＤを買っていたことを思いだした。何カ月かしてアンドレア ボッチェリのＣＤが送られてきた。オリンピックの開会式で歌っていた盲目の歌手、失明の原因はサッカーだという。音楽好きで学生時代ハワイアンバンドのボーカルだった彼女はその歌声に惹かれていたのだろう。

当時、私は奈良に住んでおり、彼女は東京の世田谷、たまに会って一緒に食事をすることぐらいはあっても、同じ時間を過ごすのは学生時代、たまたま一駅隣に住んでいた時以来だった。

私は初めてのヨーロッパだったので、ミラノのドーモが画面に映る度、あの強烈な印象が蘇ります、と返した。帰国後イタリアのことが頭から離れなくなった。建築物、教会のステンドグラス、フレスコ画、パイプオルガンの響き、彫刻、街の風景、頭の中でぐるぐると熱を持って回り続けた。

引退にかけてタイム セイ グッバイの方が有名だけど、私にとってエジプト旅行はコンテ パルティロで終わっていた。コンテ パルティロの日本語訳は「君と旅立とう」とあった。一緒に旅行するのはもう最後かもと何処かで思ってエジプト旅行を予約した直後だった。